



川端玉章 牡丹



川端玉章 百日紅



村瀬玉田 芍薬



村瀬玉田 兎



村瀬玉田 萩



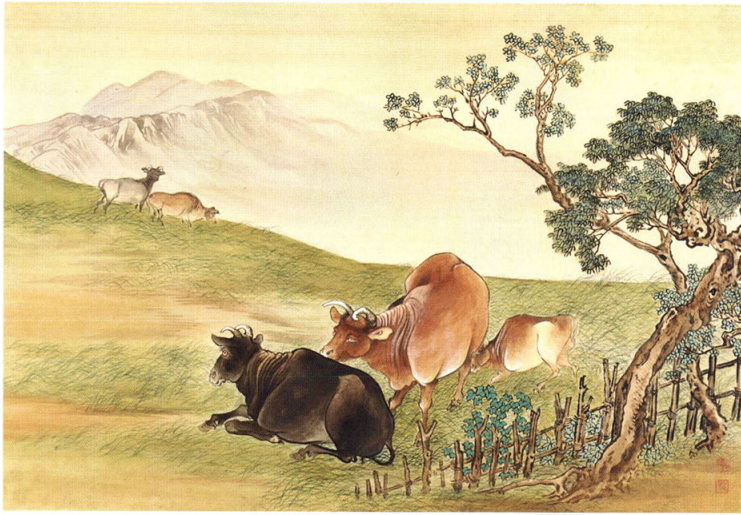
村瀬玉田 桜

29 玉章玉田合作画帖 川端玉章・村瀬玉田
三帖のうち

明治二十二年（一八八九）
紙本着色
各二八・九〇・三〇・〇×四〇・七〇・四三・三

京都で円山派を学んだ川端玉章（一八四二〜一九一七）、両者とも東京に活躍の場を移し、宮内省からの依頼で数多くの絵を描いた画家である。この画帖も宮内省の御用を受けて、玉章と玉田がほぼ半分ずつ絵を描いたものである。保守的な画風の玉田と比較すると、玉章の先進的な画風が際立ってくる。

玉田が背景に、近世までの絵画では常套であった金泥による霞の線を引いているのに対し、玉章は明らかに空間を意識し、洋画の基本表現であった空気遠近法を用いて、モチーフとモチーフの間に流れる空気感や遠方の大気を表現しようとしている。また玉田も多少陰影を付けながら彩色をしているが、玉章はモチーフの湾曲や盛り上がり、丸みといった形状を描き出そうという明確な意図をもって陰影をほどこしている。円山派の得意とした写実的な表現と洋画の表現方法を融合させることがこの時期の玉章の取り組んでいた課題であったと言えるが、三十年代から四十年代にかけて玉章も老齢にさしかかると、一目見て洋画の影響とわかるような描写表現は影を潜め、より自然な風景表現へと変化していった。



川端玉章 放牧



川端玉章 蓮



川端玉章 飛鳥山

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

明治美術の一断面——研ぎ澄まされた技と美

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 82

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成三十年十一月三日発行

© 2018, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan